

成人用肺炎球菌ワクチンの接種について

成人用肺炎球菌ワクチンの接種を実施するにあたって、受けられる方の健康状態をよく把握する必要があります。そのため、裏面の予診票にできるだけ詳しくご記入下さい。
また、ワクチンの接種にあたって以下の注意事項をよく読んでおいてください。

〔ワクチンの効果と副反応〕

効 果：予防接種により、肺炎球菌感染症を予防したり、症状を軽くすることができます。
また、肺炎球菌による合併症についても予防することが期待されます。

副反応：注射部位が赤くなる・腫れる・痛くなるなどの局所症状や、発熱・悪寒・頭痛・倦怠感・嘔吐などの全身症状もまれに起こることがありますが、通常は2～3日中に消失します。また接種後、アナフィラキシー、ギラン・バレー症候群、血小板減少性紫斑病、蜂巣炎など強い副反応を生じることがあります。

〔接種不適当者（接種を受けることが適当でないもの）〕

次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を行ってはいけません。

1. すでにワクチンの接種を受けたことがある者
2. 明らかに発熱を呈している者
3. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
4. 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

〔接種要注意者（接種の判断を行うに際し、注意を要する者）〕

健康状態及び体質を勘案し、次のいずれかに該当すると認められる場合には、注意して接種しなければなりません。

1. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有することが明らかな者
2. 過去に痙攣の既往がある者
3. 過去に免疫不全の診断がなされている者
4. 気管支喘息のある者

〔ワクチン接種の注意〕

1. 予防接種後30分間は、なるべく医療機関にとどまり、様子を観察しましょう。
2. 予防接種を受けた日は、入浴しても差し支えなく、接種部位を清潔に保ってください。
また、いつも通りの生活をし、はげしい運動は避けてください。
3. 予防接種をした部位が赤くなったり、腫れたり、傷んだり、軽い発熱などが起きることがあります。もしも、局所に異常反応や体調の変化、さらに高熱・けいれん等の異常な症状が生じた場合には、速やかに医師の診察を受けてください。